

えにし 特集展示 縁を結ぶかたな —国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞—

2026年2月4日(水)～3月22日(日)
京都国立博物館 平成知新館(1F-4・5 展示室)

文化財や美術品との出会いには様々な入口があります。この展示では、京都国立博物館の収蔵する国宝・重要文化財の名品を通して、普段の生活では身近に感じるもののできない「刀剣」分野の見どころを「形」「銘」「刃文」「刀身彫刻」の四つのテーマに沿ってご紹介します。

◆形

日本刀の形状は片刃で反りがあるという基本構造に共通性を持ちつつ、製作された時代によって各部のバランスに変化が生じます。使用目的や文化的背景、戦闘環境や使用者の変化に影響を受ける日本刀の姿を見てみましょう。

◆銘

日本刀には茎(なかご)に文字情報(銘)が刻まれることがあります。銘文の内容には、製作者の名前のほか、居住地や製作年月日、後世の鑑定の結果が刻まれていることもあります。

◆刃文

刀剣に武器や道具としての硬度や柔軟性を持たせるための処理が焼入(やきいれ)です。焼入による金属組織の変化の副産物として生まれる文様を刃文といいます。刃文にはさまざまな形があり、刀剣を鑑賞する際の見どころとなりました。

◆刀身彫刻

刀剣には、刀身に直接彫刻が施されているものがあります。起源は古く、我が国では鉄製刀剣が盛んに用いられたはじめた古墳時代から作例があります。製作者の信仰心が込められたもの、実用性を高めるため重量の軽減を目的としたものなどがあります。

国宝 太刀 銘 安家 京都国立博物館蔵

安家は平安時代末期、伯耆国(現鳥取県西部)で活動した刀工。細身で強く反る古風な姿が見どころ。黒田家に伝来し、安家の在銘作品はこの太刀のみ。



重要文化財 刀 金象嵌銘本多美濃守所持/義弘本阿(花押)

(名物桑名江)

京都国立博物館蔵

金象嵌銘は本阿弥光徳(ほんあみこうとく、一五五四～一六一九)によるもの。極め(鑑定)の銘として越中(現富山県)の刀工・義弘(よしひろ)の名と、所有者である本多忠政の名を刻む。



【開館時間】午前9時30分～午後5時 *金曜は午後8時まで開館 *入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】一般700円 大学生350円

*本観覧料で当日の平成知新館の全展示をご覧いただけます。

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料。

*障害者の方とその介護者1名は無料となります。障害者手帳などをご提示ください。

*キャンパスメンバーズ(含教職員)は、学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【休館日】月曜日 *ただし、2月23日(月・祝)は開館し、2月24日(火)休館

【一般問い合わせ】TEL 075-525-2473 (テレホンサービス) <https://www.kyohaku.go.jp/>

—報道に関するお問い合わせ—

京都国立博物館 学芸部企画室 TEL:075-531-7508/FAX:075-531-7719 〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527
press_kyohaku@nich.go.jp